

赤十字 きょうと

日本赤十字社



日本赤十字社京都府支部の活動

救 急 法

【最年少】18歳の高校生指導員が誕生しました！

令和6年9月に行われた、「令和6年度赤十字救急法指導員養成講習」を経て、最年少18歳の高校生指導員が誕生しました！！
中村亮祐さんは市内の高校に通う高校3年生です。



以前火災の現場に遭遇した際に、現場から救出された人に救急隊員が胸骨圧迫を行う姿に衝撃を受け、さらに、その人が命を取り留めたと知り、「自分も災害現場の最前線で人の命を救う仕事がしたい」と救急救命士を目指すようになりました！万一の際に救急車を待つだけでなく、心肺蘇生や応急手当をすることの大切さを多くの人に広めたいです。

AED 20周年

今から20年前の2004年7月、それまで医療従事者にしか許されていなかったAED(自動体外式除細動器)の使用が、一般の人にも認められるようになりました。日本赤十字社京都府支部では、赤十字救急法等の各種講習を通じて、いざという時の一次救命処置などについて広く一般に普及するための活動を行っています。



青少年赤十字

「車いすバスケット面白かった！」子どもたちが車いすバスケット選手と交流しました。

令和6年12月7日(土)京都市立陵ヶ岡小学校の体育館にて、ふれあいバスケット(子ども体験教室)が行われました。この活動は毎年、京都市青少年赤十字教育研究会が主催となり行っているもので、小学生約40名が京都アップスの監督・選手のご協力のもと、車いすバスケットボールを体験しました。

車いすに乗ること自体が初めての子どももいたり、最初はぎこちない様子で試合が始まりましたが、いつの間にか車いすバスケットに熱中する子どもたちの姿がありました。



子どもたちの感想

障がいがあるとか、障がいがないとかで差別をしてはいけないと思った。車いすバスケットの選手に色々教えてもらって、私たちが車いすの人たちを助けてあげるというのではなく、お互いに支え合って暮らしていけばいいと思った。

京都府支部有功会

有功会より小児病棟入院児童にクリスマスプレゼントをお渡ししました！

有功会事業の一環として、京都第一・京都第二赤十字病院小児病棟に入院中の子どもたちに、毎年クリスマスの時期にプレゼントをお贈りしています。

令和6年度は、各病院において面会等の規制が緩和されていることから、ハートラちゃんと一緒に有功会会長・副会長よりクリスマスプレゼントをお渡ししました。



有功会とは…
詳しくはこちら！



特集

Special Feature

『令和6年能登半島地震から1年 ～日赤京都府支部の災害救護活動～』

令和6年1月1日、石川県能登地方を中心に発生した最大震度7の地震から1年。日本赤十字社京都府支部では、発災直後から職員が参集し、情報収集や救護班等の派遣調整にあたりました。その後、1月4日に京都第一赤十字病院と京都第二赤十字病院のDMAT（災害派遣医療チーム）が出動して以降、災害医療コーディネーターチーム4班、救護班11班、こころのケアチーム2班など合計161名の救護員を派遣し、輪島市を中心に巡回診療やこころのケア等の活動を行いました。



活動の詳細

救護班・こころのケア班の活動



←避難所からの緊急搬送
避難所に避難をされていた方の体調が悪化、直ちに搬送可能な救急車が付近におらず、緊急搬送の対応を行いました。



←避難所アセスメント
山間部に点在している避難所を訪問し、各避難所で今何が必要とされているかを伺い報告しました。



↑巡回診療・救護所での診療

避難所の巡回、避難所に設けられた救護所にて、診療を行いました。当時、水道の復旧に大幅な遅れが生じたことから衛生環境が悪化しており、感染症の対応等も行われました。



↑「ホットルーム」でのこころのケアの様子

輪島市役所内や輪島病院内に設けられた「ホットルーム」にて、足湯やハンドマッサージなどのこころのケアを行いました。



災害への備え

1 赤十字防災セミナー

あなたの街で災害が発生したら予想される課題を具体的にイメージしながら、命を守るさまざまな方法を地域に密着した形で学ぶのが赤十字防災セミナーです。グループワークやゲームを通じて、地域や自宅の危険箇所を確認したり、避難所での過ごし方について考えます。



〈お申込について〉

赤十字防災セミナーは各地区・分区の赤十字窓口よりお申込いただけます。お勤め先の仲間と、町内会の皆さんなどと、ぜひ身近な方々と一緒にお申込ください！



2 防災倉庫の設置

日本赤十字社京都府支部では、救援物資である毛布・緊急セットを府内全市町村の地区・分区に備蓄しているほか、災害発生時に被災された方々へ速やかに救援物資などをお届けできるよう、京都府北部、南部の市町村と協定を結び、これまで8か所に防災倉庫を設置してきました。



令和6年度には、宇治田原町と協定を結び防災倉庫の運用が開始されました。

お知らせ

寄付機能付き自動販売機の設置をしませんか？

寄付機能付き自動販売機の設置を通じて、活動資金にご協力いただける法人の皆さまを募集しています。

※自動販売機の設置・管理、売上金の回収、赤十字への振込などの手続きは、設置業者が担当いたしますので、ご負担は自動販売機の電気代のみとなります。



お問い合わせはこちらまで

日本赤十字社京都府支部 組織振興課
mail: shinko@kyoto.jrc.or.jp

おわりに

青少年の育成、各種講習の実施、災害救護活動、これらの活動の財源は、全て皆様からご寄付いただいた活動資金によりまかなわれています。

「人間を救うのは、人間だ」

これからも日本赤十字社京都府支部は、苦しんでいる人を救うため、様々な活動を展開してまいります。今後とも、皆様のご支援・ご協力のほどよろしくお願い致します。

